

分散する情報を一元化 多店舗展開の経営課題を解決する「FN Cloud」

(株)ユニコーン 《大阪市中央区》

<https://www.atlantis21.co.jp/>

ブースナンバー
C-08

3県14会館で広域展開する 葬儀社の情報管理の課題を解決

1980年に設立した(株)飛鳥会館(社長大森嗣隆氏)は、山口県下関市を拠点に、県内の宇部市ほか、福岡県北九州市、広島県福山市にも出店し、葬祭会館は14か所を展開する。施行件数も順調に伸びており、昨年度は約3,000件で、5年前の約3倍と順調に伸びている。

今後はエリア拡大ではなく、既存商圏のシェアアップを企図して出店していく考えで、年内に下関市に1会館、福山市に2会館を出店予定。これによりさらなる件数アップが見込まれる。

その同社では、会員制度を設けている。現在の会員は2万件近くになるが、会員情報と事前相談情報はこれまでクラウド型アプリを利用していた。しかし、売上げ等はエクセル、施行情報はペーパーのみと混在し、情報管理がバラバラであった。

そのため、施行後、時間経過とともに各情報の紐づけが弱くなると、データ連携が不十分となり、CRM(顧客関係管理)導入などによる課題解決が急務となっていた。そうしたなか、顧客情報から施行情報、商品情報などの管理媒体の統合と業務効率化を図ろうと、大森社長主導のもと、(株)ユニコーンの「FN Cloud」の導入が決まった。

ユニコーンは、パッケージソフトウェアの開発、業務システムの受託開発などを手がける。2017年にクラウド版葬祭システムパッケージFN Cloudの販売を開始するや、専門葬儀社、互助会、JA葬祭などに導入ユーザをふやし、いずれも導入効果を発揮している注目企業だ。

今回、飛鳥会館が導入したそのFN Cloudは、パッケージシステムにもかかわらず“システムが業務に合わせる”機能が豊富である。ユニコーンの単独開発という強みを活かし、管理項目、運用ガイド、レポートなどの作成機能は、各社ごとに異なる細かな

COMMENT

広域展開する葬儀社にこそ提案したい「FN Cloud」



(株)ユニコーン
ソリューション事業部 兼
プロダクト事業部
営業統括プロジェクトマネージャー

楠原卓磨氏

飛鳥会館様は、これまで、手書きの見積内容をスプレッドシート(表計算ソフト)へ転記して施行状況の共有がなされていました。導入にあたり、スプレッドシートをFN Cloudのホワイトボード画面へ切り替えることで、システムで入力した施行内容がホワイトボード画面にリアルタイムで反映させ、最新の情報共有と顧客対応にご活用いただける形となっています。

FN Cloudのホワイトボード画面は、各社ごとに柔軟に調整できる仕様となっており、ユーザー様からご好評いただいている

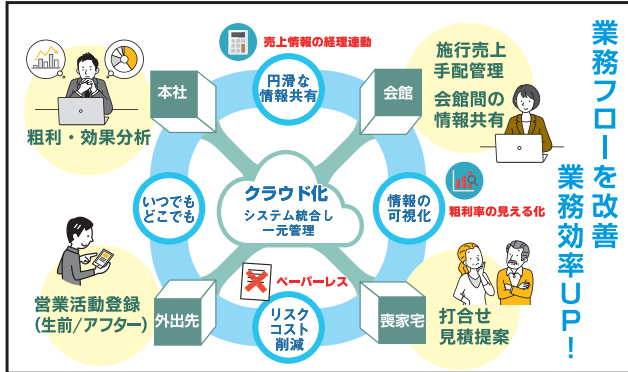
機能の1つです。

また、通常の販売管理システムの場合、請求管理と入金管理の2種で構成されることが多いのですが、広域エリアで展開される飛鳥会館様のような場合、現地では集金できているが、本社には届いていない状況があります。

こうしたとき、入金の入力は一般的に本社の経理部門しか操作しないのですが、データが未収状態のままですと、支払い済みにもかかわらず、誤って入金の催促をしてしまうおそれがあります。

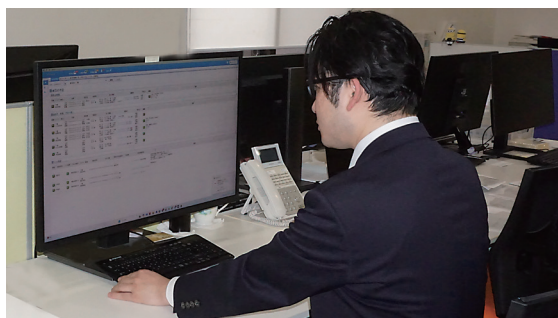
入金の報告管理は、現場が集金した時点で入金報告データとして仮登録されたのち、本社側で報告データから入金データへの承認を取る機能です。業務フローと入金状態を正確に把握するためにご利用いただける機能となります。

いずれの機能も、飛鳥会館様のように広域エリアで事業を展開されている葬儀社において、拠点が離れていても入金状況などを共有できる機能として、ご提案しております。



(株)ユニコーンの概要

所在地／大阪市中央区大手通1-1-2(本社)
 06-6943-4560
 東京都文京区本郷3-40-10(東京事業本部)
 03-6808-1237
 代表者／中野恵司
 設立／1992年4月



FN Cloud によってさまざまな情報管理が可能となった



飛鳥会館のホームページ

ニーズにも柔軟に対応・カスタマイズできる。
 ユニコーンは葬儀社の課題解決をミッションとし、導入前から導入後まで専任担当者が付き、同じ目線でサポートすることが評価されている。

**顧客・施行情報を追跡し
 省力化とアフター強化に貢献**

システム選定は、既知性・経験にもとづいて早期に意思決定し、導入には中小企業基盤整備機構のIT導入補助金を活用。導入決定後、各種要件の打合せを半年ほど行なったのち、ペーパー管理だった飛鳥会館の施行情報をユニコーン側が読み取ってデータ化するなどして、ペーパーレス化に着手。

今年2月から本格稼働すると、過去の葬儀データの検索・参照機能により、施行担当者と本社の確認作業が効率化された。履歴追跡が可能となったことで、特にリピーターの事前相談や葬儀依頼時など、過去の葬儀記録をすぐさま参照でき、遺族からの信用・信頼が高まったのは言うまでもない。

また、FN Cloudの導入とともに現場スタッフにノートパソコンが支給された。以前は本社にしか物理サーバーがなく、必要な情報を得るには本社に確認する必要があったが、担当者は遺族宅での打合せ時などでも確認できるようになり、効率性が格段に向上した。

導入から3か月弱が経ったが、現場スタッフの反

応は良好。PC操作への抵抗感もなく、大きな混乱も起きていない。

本社では施行データの入力漏れがないかをチェックしているが、導入初期に比べ大幅に少なくなっている。

飛鳥会館では、今夏から秋にかけてコンタクトセンターの新設が予定されている。FN Cloudを導入したからこそ可能になった新展開だ。

そして今後の本丸はアフター領域の追客である。これまではアフター商材がなく、施行後の対応が十分ではなかったが、システム導入により提携先への送客口としてアフター部門の強化を図っていく予定。

現在はまだエクセル入力と併用している段階だが、近々FN Cloudに一本化させる。そうなれば、事務スタッフの作業量が大幅に削減でき、導入コストは早期に回収できる目算だ。

FN Cloudを導入したことで、これまで把握できていなかった失注状況が可視化され、過去のデータを参照することで失注を未然に防ぎ、受注機会をふやすための具体的な取組みができるようになった。今期はさらに会館がふえるが、システム導入によって、省力化を推し進めるとともにアフター部門の強化も図れよう。

システムベンダーであるユニコーンは、ソリューション企業としても葬祭業界をサポートする。